

座 談 会

次世代モノづくりの必要条件を探る

業界トップが語る

進展するグローバルモノづくり



自社の強み生かし果敢に挑戦
今が脱皮する良いチャンス

モノづくりについて、当社は経営方針に「ソフト、ハード、ハート（心）」を掲げています。モノづくりの原点は「JUNO」にあると思います。

井水 本日お話をうかがい、「先手を打って柔軟に対応する」「自社に挑戦する」「自社の強みを生かす」といった点が皆さま共通頂かど感じました。本日はありがとうございました。

男性とは限りません。むしろ思考がどうしてもワンパターンになりがちな男性と異なり、女性はきめ細かくいろいろなことに気がついてくれます。忍耐強く真面目で、男性和とは違った切り口でいます。当社はこの分野に特化し、工具の長寿命化やさまざまな材質への対応などお客さまの要望に応えていきたいと思えます。今は脱皮する良いチャンスだと私は思います。

ていますね。

後藤 当社の開発や生産の現場にいる約1000人のうち30人は女性です。これは今のモノづくりには、女性でも動きやすい環境を作ることが大切です。「モノづくり」

車 燃料電池、航空機精密部品、医療関連といった分野が伸びていると思います。日本においては微細加工技術がキポイントになると考えています。日本が生き残っていく分野だと思います。

の微細加工技術を研究し生
ています。材料の変化に産
に対応していくことが、大拠
手ノコギリに負けない加
工技術を磨くためには必
要に考えてあります。

井水 日進工具では女
性社員もたくさん活躍し
ています。例えばハイ
ブリッドノコギリや電気自動
の生産拠点がますます海外
に出て行ってしまうま
す。

日本はモノづくりの分
野で世界を引っ張ってい
かなければならないと思
っています。例えばハイ

マシンングセンターやCAD/CAM、ツーリングなどの各企業や大学、研究機関などと協力して新しい加工技術についても提案していきたいと思っています。実際、ソディックなどは高速加工機で響で、モノづくりは一段と厳しい状況になっています。政府には景気対策に金の力を強化して雇用を拡大するための施策を行ってほしいと思っています。そうでないと

密、微細的に絞り、小径真の専門メーカーとして事業展開を考えています。そしてエンドミルだけを生産するのではこれからダメだと思っています。今後はトータルソリューションを考え

なか、日本は他国にできない先端技術をベースにしたモノづくりを行っているかなければ生き残るのは難しいと思います。

各社が大手企業からコスタウンを求められて

います。最近の円高の影

実現するのは私の仕事だ
と思います。

井水 素晴らしいお考
えですね。

後藤 そのためには製
品の性能、品質がまず基
本になります。特に精
界中に制覇してきました。
日本は匠の技で世
がデジタル化がアジア
のモノづくりに大きな影
響を与えました。新興国
と同じことをやっています。
そのよう

日本の強みは 微細・精密加工技術

井水 今後の海外進出を考えている中小企業に問うた。アドバイスはありますか。

古川 中国に進出する場合は人的なコネクションが必要で、法的にも異なる国なので、事前の学習や人脈の活用は重要です。タイへの進出は、日本で事業展開している企業であれば、誰でもできると思います。人口が増えておりまして、いつ進出しても遅いということではないのでないでしょうか。

井水 他の企業の参考になればと思います。日進工具はグローバル化の

なか、国内で生産を進めていくということですが、

後藤 取引先は海外に出しており、「日進工具も出て行かないか」と誘われますが、生産拠点を移す予定はありません。

中長期ビジョンに關しては、まず超硬小径インドリル市場で圧倒的なポジションを目標にしています。現在30%のシェアを40%に引き上げ、グローバルニッチトップを

ス

実現するのが私の仕事だ
と思っている。

井水 素晴らしいお考
えですね。

後藤 そのためには製
品の性能、品質がまず基
本になります。特に精
密、微細にものを絞り、小
径、真の専門メーカーと
して事業展開を考えてい
ます。そしてエンドミル
だけを生産するのではこ
れからはダメだと思っ
ています。今後はトータル
ソリューションを考え、
マシニングセンターやC
AD/CAM、ツーリン
グなどの各企業や大学、
研究機関などと協力して
新しい加工技術について

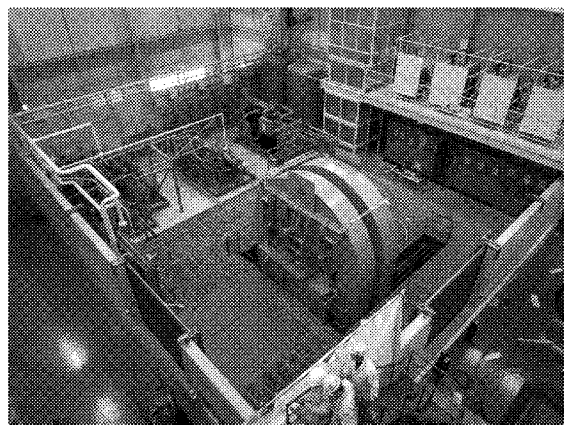
が、デジタル化がアジア
のまっぐりくに大きな影
響を与えました。新興國
と同じことをやっていた
はだめです。そのような
なか、日本は他國にでき
ない先端技術をベースに
したまっぐりを行って
いかなければ生き残るの
は難しいと思います。

各々が大手企業からコ
スタウンを求められて
います。最近の円高の影
響で、まっぐりには一段
と厳しい状況になってい
ます。政府には景気対策
的に企業の体力を強化し

the metal solution®

HIPテクノロジーで次の50年へ

2010年は金属技研にとって創立50周年を迎え、さらには世界最大級HIP装置 **Giga-HIP®** を稼動させた記念すべき年でした。しかし金属技研のモノづくりへの挑戦はこれで終わりません。



Giga-HIP®

今年は千葉に新工場を開設し、
本格的にHIPテクノロジーを活用した
航空機部品のリペア技術の開発に挑戦していきます。

次の50年へ向けて
金属技研はHIPテクノロジーをはじめとする
高い技術力をもって、社会・人・暮らしへの貢献を通じ、
皆様に愛され、信頼される企業を目指し、たゆまぬ努力を続けてまいります。

MTC
Metal Technology Co. Ltd.

金属技研株式会社

本社 / 〒164-8721 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 27 階 TEL: 03-5365-3050(代) FAX: 03-5365-3055
群馬工場 / 茨城工場 / 神奈川工場 / 滋賀工場 / 姫路工場 / テクニカルセンター / 上海連絡事務所

ぜひホームページをご覧ください。

金属技研

检索

www.kinzoku.co.jp